

向日市

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

事業名

不登校早期支援対応チーム

事業の経過・背景・課題

不登校児童生徒数は年々増加傾向にあり、出現率は全国や京都府よりも高く喫緊の課題である。特に小学校低学年で、すでに不登校傾向が見られる児童が増加しており低年齢化の傾向が見られる。

小学校における不登校（傾向を含む）児童の中には、特別な教育的支援等を必要とする場合があり、専門家による早期の見立てや適切な支援による学校への不適応感の軽減が急務である。

取組内容

交付実績額： 千円 ※セット新規

（※）本交付金を活用することで生じる余剰財源の1/2程度の額により
教育環境の充実に資する事業を新たに実施・拡充

○年々増加する不登校児童生徒に対して、早期に臨床心理士や社会福祉士、特別な教育的支援に係る専門家等の専門性を生かしたアセスメントを実施し、学校も含めたチームで支援を行うことで、学校復帰や社会的自立を促す。

- ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、作業療法士、特別支援教育専門家がチームを組み、学校へ巡回訪問を実施することで、スクールカウンセラー等の配置がない学校においても、専門家によるアセスメントを定着
- ・学校のニーズや対象とする児童生徒の状況に応じて、柔軟なチーム編成をし課題に対応
- ・上記に加えて、府の「不登校児童生徒支援システム構築事業」を推進し、「小中の切れ目のない支援」や「不登校児童生徒の学びの場の確保」等に取り組み、市としての不登校対策事業の充実を図る。



事業の成果・今後の展望等

- ・「もう一つの教室」は、小・中学校で合わせて29名の児童生徒が利用しており、個々の状況に応じて、教育支援センター「ひまわり広場」や民間のフリースクールとも連携しながら継続的な支援を実施することができた。
- ・取組の成果を波及させた結果、指定校以外でも工夫しながら別室の開室に取り組み、登校を支援することができた。
- ・専門家チームの巡回派遣の充実により、スクールカウンセラー等の配置がない学校においても、教育相談部会等での専門家によるアセスメントが定着してきた。
- ・不登校傾向が見られる全ての児童生徒へ対応するため、教育相談における学校のコーディネーターと市教育委員会の連携をさらに密にし、専門家チームと学校が、不適応感を持つ児童生徒の状況を早期に共有することで、不登校の未然防止の取組の充実を図る。